

令和6年 由布市観光動態調査

【観光客総数】

(単位：人)

月	日帰り①	左のうち外国人②	宿泊③	左のうち外国人④	合 計 ①+③	外国人計 ②+④
1	205,467	82,275	96,681	21,825	302,148	104,100
2	214,019	80,242	104,705	21,286	318,724	101,528
3	262,413	89,731	130,662	23,803	393,075	113,535
4	250,325	107,073	117,066	28,404	367,391	135,477
5	284,833	109,790	128,540	29,124	413,372	138,915
6	231,425	100,062	101,268	26,544	332,693	126,606
7	224,716	106,790	102,748	28,328	327,465	135,118
8	231,135	73,043	125,096	19,376	356,231	92,420
9	240,616	95,974	116,058	25,459	356,675	121,433
10	239,070	88,937	123,720	23,593	362,790	112,529
11	284,136	102,261	132,968	27,127	417,105	129,388
12	234,290	105,383	115,946	27,955	350,235	133,339
計	2,902,445	1,141,561	1,395,458	302,826	4,297,903	1,444,387
前 年	2,653,016	804,901	1,389,412	225,675	4,042,428	1,030,576
対前年比	109.40%	141.83%	100.44%	134.19%	106.32%	140.15%

令和6年 由布市観光動態調査

【 発地別観光客数 】 (単位：人)

	北海道 東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄			外国	合 計
							福岡県	その他九州	大分県		
日帰り	19,970	151,739	60,924	89,379	77,111	31,418	481,222	335,410	513,594	1,141,561	2,902,328
宿 泊	14,098	127,642	58,570	102,712	62,961	28,663	334,337	212,660	151,105	302,826	1,395,575
計	34,068	279,381	119,494	192,090	140,073	60,081	815,559	548,070	664,699	1,444,387	4,297,903
前 年	34,894	300,865	120,867	203,558	145,371	59,375	834,287	573,710	738,925	1,030,576	4,042,428
対前年比	97.63%	92.86%	98.86%	94.37%	96.36%	101.19%	97.76%	95.53%	89.95%	140.15%	106.32%

【 観光消費額 】 (単位：千円)

令和6年	27,199,998	前 年	25,933,345	対前年比	104.9%
------	------------	-----	------------	------	--------

令和 6 年由布市観光動態調査結果について

令和 7 年 5 月 23 日

由布市商工観光課

1. 調査対象期間

令和 6 年 1 月～12 月の 1 年間

2. 調査結果の概要

令和6年の観光入込客数は前年(令和5年)を255,475人上回る4,297,903人(前年4,042,428人 対前年比106.32%)となった。また、日帰り・宿泊別では、日帰り客が2,902,445人(前年2,653,016人 対前年比109.40%)・宿泊客が1,395,458人(前年1,389,412人 対前年比100.44%)となりいずれも微増となった。

旅行者全体の男女比は、男性が46%、女性が54%となった。男性・女性別の年代別構成比(10代以下、70代以上除く)は、男女ともに50代以上で約半数(男性 50代：23%、60代：24% 女性 50代：20%、60代：28%)を占める結果となったが、どの世代も大きな差はなく、満遍なく来訪している。また、月別構成比では、令和6年の月別の最大差は2.7%となった。これは5月が最も多かった平成27年(2015年)では5.9%であったが、インバウンドの増加や、「働き方改革」による日本人観光客の長期休暇以外での休暇取得が容易になったことが一因と考えられ、月ごとの差は縮まってきている。

日本人観光客・外国人観光客別でみると、日本人観光客数の日帰り客は1,760,884人(前年1,848,115人 対前年比95.28%)、宿泊客は1,092,632人(前年1,163,737人 対前年比93.88%)と日帰り客・宿泊客ともに微減した。また、外国人観光客は、日帰り客は1,141,561人(前年804,901人 対前年比141.83%)、宿泊客は302,826人(前年225,675人 対前年比134.19%)と日帰り客・宿泊客ともに大幅に増加した。

発地別で比較すると、全国的に前年より減少しているが、特に大分県内からの来訪者が最も減少(前年738,925人 対前年比89.95%)しているという結果になった。コロナ禍が明け、県内の近場で旅行をしていた観光客が、徐々に県外へ旅行を再開し始めたことが一因として考えられる。

外国人観光客数は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行された令和5年に過去最高であったが、円安等の影響により、令和6年は令和5年をさらに上回り、日帰り客・宿泊客合わせて1,444,387人(前年1,030,576人)となり、インバウンド率も33.6%と過去最高を更新する結果となった。国別の比率では、半数程度を占める韓国をはじめ、台湾、中国、香港の東アジア圏が全体の85%を占めており、例年どおりであるが、中国人来訪者割合は前年よりも増加した。(令和5年:全体の4% 令和6年:全体の16%)また、多様な国からの旅行者が増えてきた。

ホテル・旅館客室の稼働率はコロナ禍からの回復により、稼働率が急激に上昇した。その後は徐々に落ち着きを取り戻してきたが、令和6年の夏季の猛暑や豪雨災害の影響により減少した。また、稼働率は令和5年よりも低い、宿泊者数は増加しており、簡易宿泊所を利用する観光客が増加していると考えられる。